

島根県公共事業再評価 対応方針（案）

作成日 令和2年 6月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	(費用対効果) (コスト削減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
8	<p>(事業名・地区) 白上川 総合流域防災事業</p> <p>(事業位置) 益田市美濃地町</p> <p>(事業費) 969,000 千円</p> <p>(事業概要) 全体延長 L=1,350m 築堤、掘削、護岸、橋梁、堰</p> <p>(事業主体の根拠) 河川法第9条2項</p> <p>(再評価区分) ②事業採択後10年を経過している継続中の事業</p> <p>(担当部課名) 土木部河川課</p>	<p>(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度：平成22年度 用地着手年度：平成22年度 工事着手年度：平成22年度 完了予定年度：令和16年度 経過年数：11年</p> <p>(進捗状況と今後の見込み) 進捗率：20% 用地：14% 工事：15%</p> <p>令和16年度完成予定</p>	<p>(事業導入の経緯・目的) 白上川では、国管理区間上流について広域基幹(旧中小)河川改修事業により改修している。また、昭和58年7月洪水で大きな被害を受けた上流区間は災害復旧事業により改修が実施された。</p> <p>その間に位置する当事業区間は未改修であり、現況流下能力が低く、近年では平成11年6月、平成25年8月豪雨により浸水被害が発生しているため、早急な対応が望まれている。</p> <p>(事業を取り巻く社会情勢) 上流部は災害復旧事業により改修が完了しており、当事業区間では近年浸水被害が発生していることから、浸水被害の解消が急務となっている。</p> <p>(事業に対する地元情勢・計画の熟度) 浸水被害を解消するため、沿川住民及び益田市が、河川改修の早期完成を強く要望している。</p>	<p>(費用対効果) b/c = 2.62</p> <p>(コスト削減・代替案等) 事業の実施にあたっては、残土の有効利用等コスト削減に努める。</p> <p>(その他の効果) 特記事項なし。</p>	<p>(生活環境・自然環境への影響) 改修にあたっては、現況の瀬や淵を極力活かしながら河道幅を拡幅し、護岸等は植生の復元や水際の多様化を図れる工法を用いる。</p> <p>(事業を中止した場合の影響) 現川の流下能力は低く、治水機能が大きく不足している。このまま現段階での事業中止では、家屋等への浸水被害を解消することは困難である。</p> <p>・浸水被害履歴 S58 H9、11、25</p>	<p>(方針案) 継続</p> <p>(継続・中止の理由) 現況流下能力が低く、浸水被害の解消が図れないことから、治水対策を継続することは必要である。</p>

白上川 総合流域防災事業

河川概要

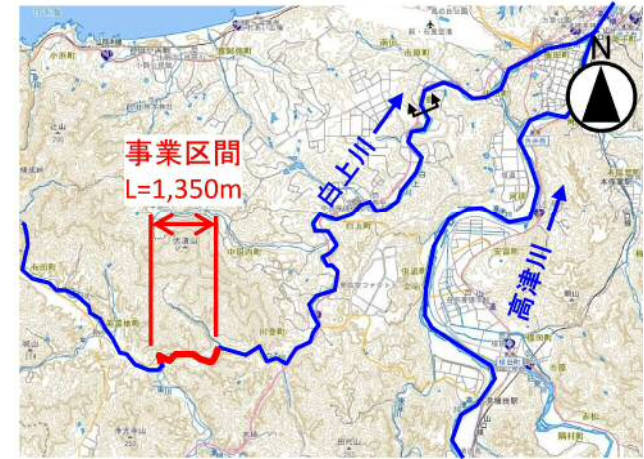
白上川は益田市西部を流れ高津川に注ぐ河川延長18.9kmの一級河川であり、国管理区間上流端から16.9kmが県管理区間である。

国管理区間上流から大道橋下流までの改修が完了し、昭和58年7月洪水で大きな被害を受けた二条川合流点から上流区間は災害復旧事業により改修が実施された。大道橋から二条川合流点までの区間は、治水安全度が不足し、平成25年8月豪雨では浸水被害が発生している。

白上川の河川改修を行うことで、地域の安全・安心に大きな役割を果たす。

事業概要

1. 概ね10年に1回程度の確率で発生する降雨による洪水に対して、沿川家屋などの浸水被害を防ぐ。
2. 河川拡幅、河床掘削、築堤、堰撤去、橋梁等の改築により流下能力の向上を図る。



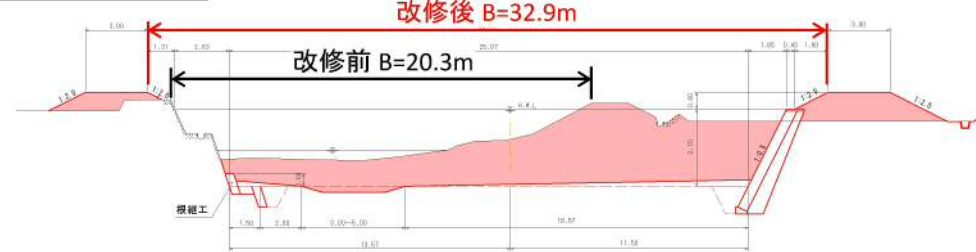
①出水状況 (H11.6)



②改修後状況 (R2.6)



標準断面図



8

白上川 総合流域防災事業 費用便益比

①費用(億円)

	事業費	維持管理費	合計
基準年	R2		
単純合計	9.69億円	2.88億円	12.57億円
基準年における 現在価値(C)	8.24億円	0.93億円	9.17億円

②便益

	被害軽減期待額(便益)				残存価値 (便益)	合計
	一般資産被害 軽減期待額	農作物被害 軽減期待額	公共土木施設 被害軽減期待額	間接被害 軽減期待額		
基準年	R2					
完成予定年	R16					
単年便益 (初年便益)	0.37億円	0.01億円	0.80億円	0.05億円		1.23億円
基準年における 現在価値(B)	7.07億円	0.25億円	15.42億円	0.86億円	0.45億円	24.05億円

※ 間接被害:営業被害、応急対策費等の間接的被害 ※ 残存価値:将来において施設が有している価値

③結果

費用便益比(事業全体) B/C	2.62
-----------------	------